

社会科学習指導案

指導者 加藤 晃子

1. 日時 平成22年11月2日(火) 6校時
2. 学級 1年4組 男子18名 女子15名 計33名 第3校舎3階
3. 主題 第3章 中世の日本と世界
1 武家政治のはじまり (4) おしよせる元軍

4. 主題について

(1) 教材について

本単元について、学習指導要領では、「鎌倉幕府の成立、南北朝の騒乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりが見られたことを理解させる」ことをねらいとしている。この時期の我が国では、古代までの天皇や貴族の政治に代わり、武士が台頭し、主従の結び付きや武力を背景にして鎌倉幕府の成立以後、南北朝の争乱と室町幕府の成立、応仁の乱後の社会的な変化などを通じて武士の支配が次第に広まっていった。元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割など、東アジア世界との密接なかかわりが、国内に及ぼした影響に気付かせたい。

(2) 生徒について

男子は明るく元気で、女子は落ち着いた雰囲気の子である。社会科については、中位から下位の生徒が多く、苦手意識を持っている生徒が多い。「地理的分野と歴史的分野ではどちらが好きか」という問いに対しては、比較的地理のほうが多かった。地理が好きと答えた生徒は、「国や都道府県の学習があるから」「地図を見るのが面白い」「調査するのが楽しい」などと答えるのと同時に、歴史が好きじゃない理由として「覚えるのが苦手」「人物がたくさん出て分らない」「出来事がよくわからない」などの答えを上げていた。一方、歴史が好きと答えた生徒は、「昔のことや人々のことを知ることができる」「人物が面白い」「昔のことや人のことを調べるのが楽しい」などと答えが出たが、地理が好きじゃない理由は「東経とかが難しい」などあったが、歴史のそれよりも少なかった。このことから、本学級の生徒の社会科に対する苦手意識は、歴史的分野が左右していると思われる。

(3) 指導について

本単元は、人物も多く登場し、出来事と出来事が関係し合いながら流れていく。古代の天皇や貴族の政治との違いに着目させながら、武家政治の特色を考察させたい。また、小学校での「平清盛」「源頼朝」「源義経」「北条時宗」などの人物の働きを通して学習した知識を生かしながら、武士が台頭し、源平の争乱からやがて御恩と奉公の結び付きを支えとする鎌倉幕府が成立し、全国に支配を広げていったことについて、出来事に因果関係があることに気付くように指導したい。グループを使って、自分なりに考えたことを他の生徒と交流する事によって、さまざまな視点に気付いたりできるように指導していきたい。

5. 指導と評価の計画

(1) 指導計画

- ①武装する豪族たち・・・1時間
- ②いざ鎌倉・・・1時間
- ③武士と民衆の暮らし・・・1時間
- ④おしよせる元軍・・・本時

(2) 評価の計画

(別紙)

6. 本時について

(1) 本時の目標

東アジア情勢とのかかわりの中で元寇をとらえ、鎌倉幕府の政治に及ぼした影響について、まとめることができる。

(2) 本時の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	「蒙古襲来絵詞」から元軍の動きや元寇に関わる幕府の動きに関心を持ち、元軍敗退の原因を調べようとする。
社会的な思考・判断	元寇の恩賞をめぐる御家人の幕府に対する不満が高まる中、徳政令が世の中に及ぼした影響を指摘できる。

7. 本時の指導の構想

(1) 指導構想

元寇について、生徒は小学校でも学習しており、ある程度の知識を持っている。導入部では、鎌倉幕府成立から滅亡までの略年表を用いて、鎌倉時代における元寇の時間的位置づけを持たせたうえで、課題設定をさせたい。展開部では、蒙古襲来絵詞を用いて、興味・関心を持たせながら、元寇をきっかけに鎌倉幕府を支える「御恩と奉公」の基礎が揺らぎはじめたことに気付かせ、徳政令が及ぼした影響について、考えさせたい。

(2) よく考え伝え合う活動について

元寇後の幕府や御家人の様子から、なぜ幕府がおとろえることになったのかを、幕府が御家人救済のために出した「徳政令」に焦点を当てて考えさせる。徳政令の内容をイメージして理解できるように指導を工夫し、各自で自分なりの考えをもったうえで、3～4人の小グループで交流し、さらに考えを深めさせたい。

8. 本時の展開

段階	過程	学習活動	よく考え伝え合う活動を通してねらいにせまるための手立て	
			評価の視点<方法>	指導上の留意点
導入 10分	課題の把握	1 略年表でこれまでの流れを想起する。 2 元についてのVTRを視聴する。 3 学習課題を把握する。 元軍との戦いに勝ったのに、なぜ幕府はおとろえていったのだろうか		1 略年表で、鎌倉時代における元寇の時間的位置をつかませる。 2 VTRで元が高麗を服従させ、日本へ至るまでの過程をと
展開 30分	課題の追究	4 予想する。 ・御家人がたくさん死んだから。 ・お金をたくさん使ったから。 ・元と戦っても何も得るものが無かったから。 5 資料から両軍の戦法の違いを確認し、元軍敗退の要因を調べる。 ・戦法の違いをとらえる。 ・元・高麗連合軍であることに気付く。 6 元寇後の幕府の対応から御家人の気持ちを考える。 ・恩賞がもらえないことへの不満の気持ちをとらえる。 7 徳政令を出したのに、それでも幕府がおとろえていったのはなぜなのかを考える。 ・徳政令の内容を理解する。 ・徳政令によって、御家人が救われるのと反対に金を貸した側に起こった不満に気付き、世の中が混乱していったことをとらえさせる。 (1) 個人で考える。 (2) 小グループで交流する。 (3) 全体で交流する。	5 資料から戦法や武器、元軍の構成を読み取り、元軍が敗退した要因について、調べようとしている。 【関心・意欲・態度】	4 学習シートに記入させる。 5 蒙古襲来絵詞を読み取りながら、元寇についての既習事項を想起させる。元軍の兵力の強さを確認した後、なぜ敗退したのかを兵の構成から気付かせたい。 6 ただ恩賞がもらえないだけでなく、これまで自費で戦ってきた御家人の苦勞に気付かせたい。また、幕府を支える基礎である「御恩と奉公」が崩れていくことに気付かせたい。 7 徳政令の内容をイメージがもてるように解説し、理解させる。そして、それぞれの立場に徳政令が及ぼした影響を考えさせ、世の中が混乱し、幕府がおとろえていったことをとらえさせたい。 (2) グループ内での司会と発表順を指示する。メモを取りながら交流させる。
終末 10分	課題のまとめ	8 課題に対するまとめを書く。	8 元寇の後、幕府がおとろえていった理由を、学習シートに3行でまとめることができる。 【思考・判断】	8 まとめを「元寇」「恩賞」「徳政令」の3つの語句を使って、文章で書かせる。